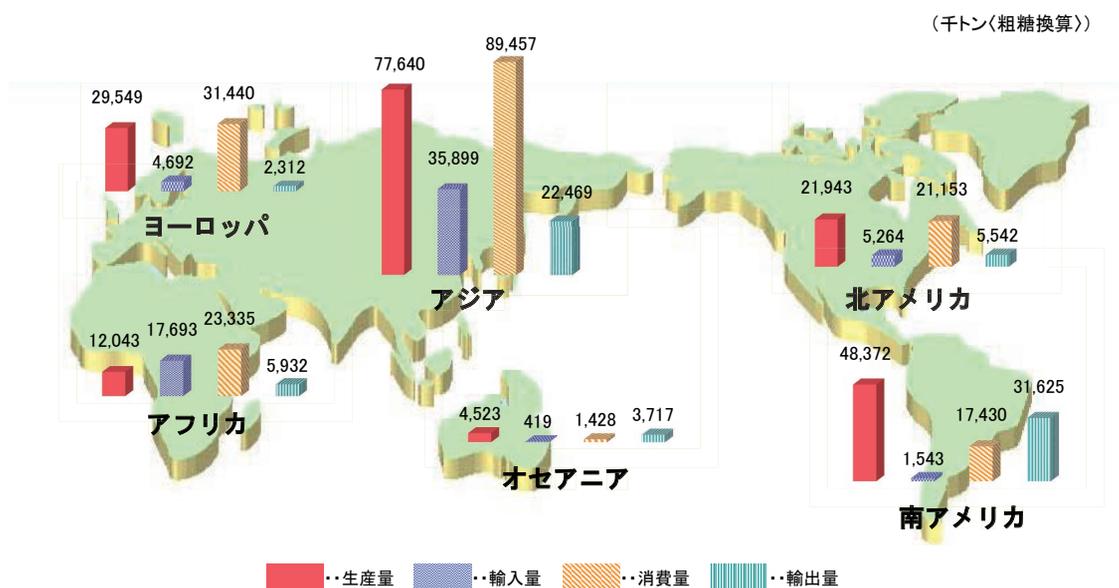


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、峯岸 啓之

1. 世界の砂糖需給（2022年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	65,921	180,954	67,989	80,859	44.7
2018/19	80,859	186,541	61,016	182,953	61,604	83,858	45.8
2019/20	83,858	181,354	69,341	182,025	71,846	80,682	44.3
2020/21	80,682	181,935	67,627	185,095	68,149	77,000	41.6
2021/22	77,000	187,706	68,544	186,710	70,290	76,250	40.8
2022/23 (2022年9月予測)	76,250	194,070	65,509	184,244	71,596	79,990	43.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2023年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002786.html

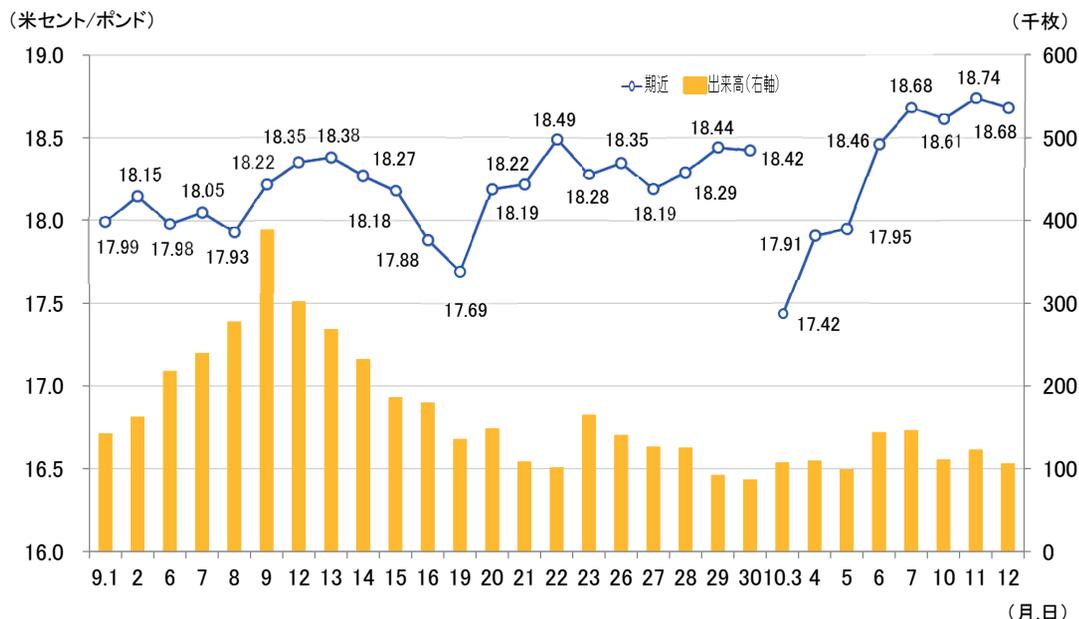
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002787.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (9/1 ~ 10/12)

~18セント台で10月限を終え、3月限は17セント台で始まるも、18セント台まで上昇~

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：9月は期近10月限、10月は3月限の値。

2022年9月のニューヨーク粗糖先物相場の推移を見ると（10月限^{がつぎり}）、2日は、今夏の欧州の熱波や干ばつの影響で砂糖生産量の減少が予測されたことから、1ポンド当たり18.15^{（注1）}セントと値を上げた。6日は、原油価格の下落^{（注2）}を受け、同17.98セントと値下がりした。9日は、タイ政府がバイオ燃料に対する国庫補助金の拠出を発表したことにより、同18.22セントと上昇した。この度の財政支援により、タイの製糖会社でのエタノールの増産と砂糖の減産が想定され、同国の砂糖輸出力が減少する可能性がある。13日は、さらに値を上げ、同18.38セントとしたが、14日は、同18.27セントと反転した。15日は、リアル安^{（注3）}などにより同18.18セントに値を下げ、リアル安の進展から、16日は、同17.88セントまで下落した。19日は、

米国大手金融企業が2023/24年度のブラジル中南部地域での砂糖の増産（前年度比5.7%増:3520万トン）を予測したことなどから、同17.69セントまで値を下げた（なお、当該企業はブラジル、インド、タイなどの主産地からの供給増加により、2023/24年度の世界の砂糖生産量は前年度比3%増の1億9440万トンと予測している）。20日は、タイ政府が近時の物価高騰を受け、砂糖を含む飲料に対する物品税の引き上げを来年3月末まで延期する^{とした}報道を受け、同18.19セントまで急上昇した。22日は、原油価格の上昇により、同18.49セントまで値を上げたものの、以後下落基調をたどり、27日は、同18.19セントまで下落した。その後は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が9月中旬までのブラジル中南部地域の砂糖生産量を前年同

期比8.4%減と予測したことを受けて反転し、30日は、同18.42セントの値を付けて納会した。

期近が3月限に切り替わった10月3日は、同17.42セントを付けた。4日以降は原油価格が堅調に推移し、7日は、同18.68セントまで上昇した。10日は、ドル高に反発して、同18.61セントまで落ち込んだ。11日は、UNICAがブラジル中南部地域の9月までの砂糖生産量を前年同期比9.9%減と下方修正したことから、同18.74セントまで押し上げられた。12日は、ドル高と原油価格の下落により、同18.68セントへと値を下げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年10月時点予測)

ブラジル

2022/23年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：851万ha (前年度比2.3%減)
生産量：6億400万トン (同4.7%増)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：3932万トン (同4.5%増)
輸出量：2866万トン (同5.8%増)

2022/23年度の砂糖生産量と輸出量は、やや増加する見込み

LMC International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) による2022年10月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2022/23年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、前年度の不作による苗不足から851万ヘクタール (前年度比2.3%減) とわずかに減少すると見込まれる (表2)。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域が平年より乾燥したも

の、その他の地域ではサトウキビの生育に良好な条件が続いたことから6億400万トン (同4.7%増) とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、7月から相次ぐガソリンの卸売価格引き下げを受けて相対的にバイオエタノール需要が減少し、砂糖仕向けの増加が見込まれることから3932万トン (同4.5%増) とやや増加すると見込まれる。輸出量も砂糖への仕向け増を背景に2866万トン (同5.8%増) とやや増加すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

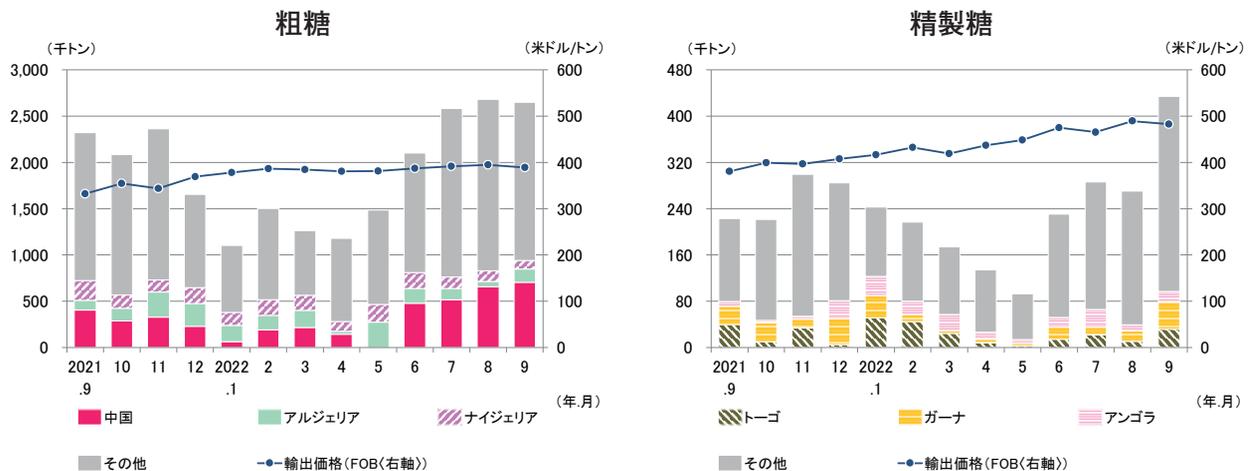
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	2022/23 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,709	8,483	8,509	▲2.3%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	600,000	604,000	4.7%	
砂糖	生産量	31,804	44,595	37,620	38,790	39,320	4.5%
	輸入量	6	8	9	8	8	▲10.6%
	消費量	10,842	10,996	10,666	10,666	10,666	0.0%
	輸出量	20,321	34,042	27,088	28,124	28,656	5.8%
	期末在庫量	3,778	3,343	3,219	3,219	3,225	0.2%
	期末在庫率	12.1	7.4	8.5	8.3	8.2	0.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

インド

2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：543万ha(前年度比5.0%増)
生産量：4億6149万トン(同3.7%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3767万トン(同2.4%減)
輸出量：811万トン(同33.7%減)

2022/23年度の砂糖生産量はわずかに、輸出量は大幅に減少する見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、前年が豊作だったことからさらに拡大すると予測され、543万ヘクタール(前年度比5.0%増)とやや増加すると見込まれる(表3)。主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州では雨

季の雨量が平年を大きく上回っており、サトウキビ生産量は4億6149万トン(同3.7%増)とやや増加すると見込まれる。一方で、砂糖生産量は、最大生産地ウツタル・プラデーシュ州での雨量が多少回復したものの平年を大きく下回っており、今後の収量に影響を及ぼすと予想されることから、3767万トン(同2.4%減)とわずかに減少すると見込まれ

る。輸出量は、2022/23年度の輸出政策がまだ明確になっていない中で輸出の流れはここ数カ月で減

速が見られ、近年と同程度となる811万トン（同33.7%減）と前年度比で大幅減が見込まれる。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

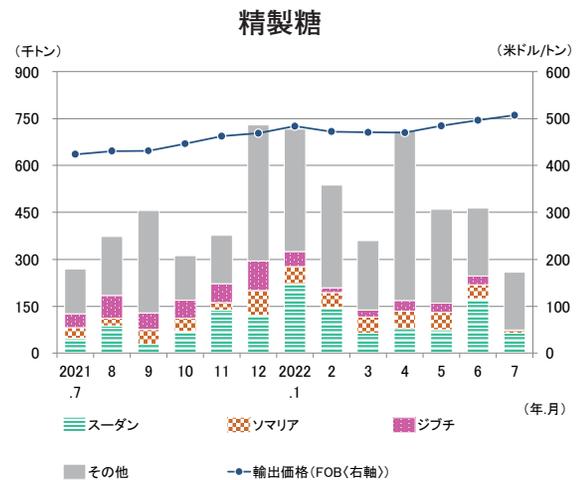
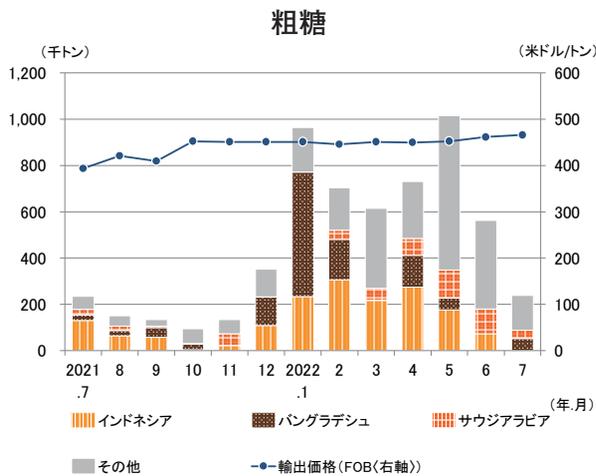
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	2022/23 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,642	4,906	5,167	5,405	5,425	5.0%	
サトウキビ生産量	369,805	421,687	444,813	459,505	461,489	3.7%	
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,602	37,459	37,674	▲2.4%
	輸入量	1,686	1,022	581	216	216	▲62.8%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,223	7,998	8,106	▲33.7%
	期末在庫量	10,486	7,932	5,517	5,013	5,385	▲2.4%
	期末在庫率	29.5	21.3	13.3	13.2	14.2	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

中国

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：112万ha（前年度同）

生産量：7176万トン（前年度比0.5%減）

【てん菜】

収穫面積：13万ha（同10.0%減）

生産量：674万トン（同4.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1053万トン（同1.9%増）

輸入量：656万トン（同6.1%減）

2022/23年度の砂糖生産量はわずかに増加し、輸入量はかなりの程度減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの

収穫面積は、112万ヘクタール（前年度同）と前年度並みと見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区の一部を除き熱波の影

響を受けていないため、7176万トン（前年度比0.5%減）とわずかな減少にとどまると予想される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシ価格の高騰を背景に政府が3月に穀物の増産を呼びかけたことから、トウモロコシへの転作が増加し、13万ヘクタール（同10.0%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。てん菜生産量は、生育は順調であるものの、収穫面積の減少により674万トン（同4.7%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ主産地の広西チワン族自治区で8月中旬から高温や乾燥が続いていたが、これまでの降水量が平年よりかなり多く、順調に生育していることから、1053万トン（同1.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き21年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされたことから656万トン（同6.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

2023年度の砂糖輸入割当量は195万トンに据え置き

中国商務省は、2023年度の砂糖輸入関税割当に関する規則を9月29日付けで公表し、2023年度の砂糖輸入関税割当は、前年度と変わらず194万5000トンに設定された。同国では、輸入糖について関税割当を設けており、関税割当枠分には15%の関税が課せられるのに対し、関税割当枠外は50%と3倍以上の税率となっている。なお、同省によると、関税割当枠分の7割が国有企業に割り振られるとしている。

このような中で、輸入量で世界第2位の同国では砂糖などの密輸が問題となっている。海関総署（日本の税関に相当する組織）によると、密輸に対する取り締まりを強化し、密輸関連犯罪から国家の安全と国民の利益を保護するために、警察などの関係機関と協力し、「百日作戦」と名付けた集中取締運動を徹底的に実行するとしている。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

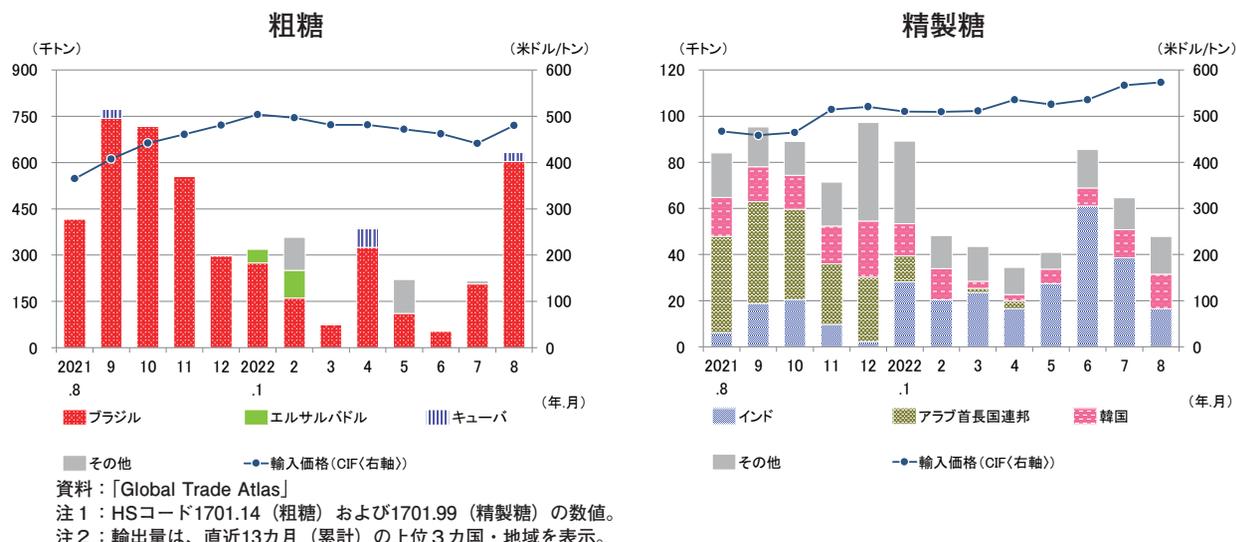
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	2022/23 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,115	1,115	1,115	0.0%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	71,762	71,762	▲ 0.5%	
てん菜収穫面積	213	231	144	130	130	▲ 10.0%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	6,736	6,736	▲ 4.7%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	10,527	1.9%	
	輸入量	6,661	8,227	6,989	6,186	▲ 6.1%	
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,740	1.3%	
	輸出量	192	132	171	170	▲ 3.2%	
	期末在庫量	12,638	15,523	16,150	15,379	16,332	1.1%
	期末在庫率	76.6	92.0	96.7	90.9	96.6	0.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



E U

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比3.7%減）
 生産量：1億105万トン（同8.6%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1611万トン（同6.5%減）
 輸出量：100万トン（同21.4%減）

2022/23年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、一部のてん菜圃場^{ほしよ}で、より収益性が高く、価格の高騰しているトウモロコシなどの穀物が作付けされたことから、140万ヘクタール（前年度比3.7%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、今夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格高騰による施肥の減少から収量が平年を下回るものと見込まれることから、1億105万トン（同8.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の減産見込みを受けて1611万トン（同6.5%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、域内消費量の増加も見込まれる中で、砂糖の減産などを背景に100万トン（同21.4%減）と大幅に減少すると見込まれる。

製油所でのストライキによる燃料の供給制限により、製糖工場の安定操業が懸念

フランスでは、2022年9月末に国内の製油所従業員による賃上げを求めるストライキが発生し、同国内ではガソリンをはじめとした燃料不足による混乱が生じている。ロシアのウクライナ侵攻により、世界的にエネルギー供給に不安定感が漂う中で、今回のストライキは、国内の製油所の稼働と燃料輸送を機能不全に陥れ、燃料の安定供給に影響を与える大きな要因となっている。

同国大手製糖企業の担当者は、ストライキの長期化によりディーゼル燃料の供給が停滞する懸念があるとし、工場稼働やてん菜輸送に必要な燃料の不足が生じることで、一部の工場で生産が制限される恐れがあるとしている。またフランス政府は、今回のストライキの長期化に備え、製糖業界を含めた国内産業への影響軽減に向けた戦略備蓄燃料の放出も視

野に入れているとしている。

砂糖生産はエネルギー集約産業の一つであり、工場の稼働において燃料の確保は不可欠であるが、フランスの製糖工場においても砂糖やエタノールの生産はガスなどの燃料に大きく依存している。同国の

製糖工場は例年9月中旬から2月上旬頃の操業期間中は大量の燃料を消費しているが、今冬、欧州では燃料不足やエネルギーの利用制限が懸念されていることから、同国の製糖企業では、冬季到来を前に砂糖生産を加速させていた矢先のことであった。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	2022/23 (10月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,453	1,394	1,399	▲ 3.7%
てん菜生産量	110,102	98,517	110,606	101,375	101,049	▲ 8.6%
砂糖	生産量	16,971	15,109	17,227	16,070	▲ 6.5%
	輸入量	2,230	1,888	2,005	2,413	19.0%
	消費量	17,016	16,751	17,722	17,739	0.0%
	輸出量	1,436	1,262	1,274	990	▲ 21.4%
	期末在庫量	2,347	1,332	1,568	1,405	▲ 14.7%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.3	7.5	7.1

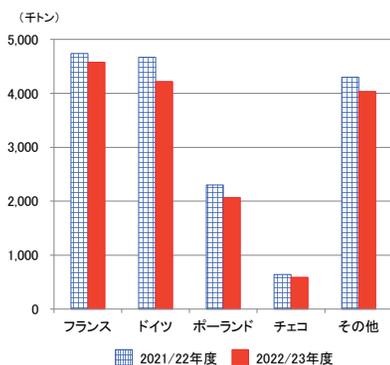
資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2022]

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2022年9月時点)

EUの砂糖生産見通し

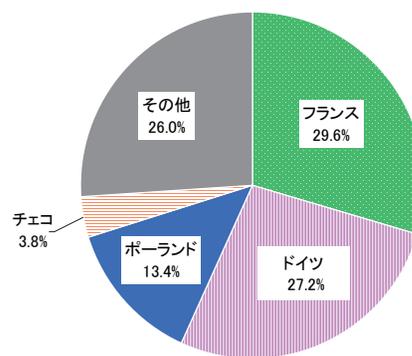


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。

国別の生産割合 (2022/23年度)



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2022年10月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しゅ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゅ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）と、これら2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比2.3%増）
生産量：3307万トン（同9.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：435万トン（同5.4%増）
輸出量：332万トン（同10.3%減）

2022/23年度の砂糖輸出量は、かなりの程度減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比2.3%増）とわずかに増加すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3月と7月にクイーンズランド州で洪水をもたらした降雨が収量には良い影響を与え、前年より良好な生育が予想されることから、3307万トン（同9.8%増）とかなりの程度増加すると予

想される。

砂糖生産量は、ラニーニャ現象による悪天候の影響で収穫作業が進まず、多くの製糖工場で処理作業が前年同期と比較して遅れているものの、サトウキビの増産を受けて、435万トン（同5.4%増）とやや増加すると見込まれる。なお、輸出量は、332万トン（同10.3%減）とかなりの程度減少すると予想される。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	2022/23 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	342	350	2.3%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	32,503	33,073	9.8%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,123	4,282	4,345	5.4%
	輸入量	17	10	15	17	17	13.3%
	消費量	1,085	1,041	1,042	1,032	1,040	▲0.2%
	輸出量	3,449	3,357	3,697	3,265	3,317	▲10.3%
	期末在庫量	747	744	143	149	148	3.2%
	期末在庫率	16.5	16.9	3.0	3.5	3.4	0.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：168万ha（前年度比12.8%増）
生産量：1億1000万トン（同19.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1277万トン（同19.4%増）
輸出量：872万トン（同7.5%増）

2022/23年度の砂糖生産量は大幅に、輸出量はかなりの程度増加する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前年が豊作であったことや、競合するキャッサバに比べて収益が高い状況にあるといった理由から、168万ヘクタール（前年度比12.8%増）とかなり大きく増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、生産地の一部地域で洪水が発生したものの、作柄に影響を及ぼすまでには至っておらず、他の地域でも全体的に雨量が多く、順調に生育していることから1億1000万トン（同19.5%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト^(注1)の普及を背景とした^{しょうとう}梢頭部や葉などの混入が歩留まりを低下させるものの、1277万トン（同19.4%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、砂糖の大幅な増加を受けて872万トン（同7.5%増）と倍増した前年からさらにかかなりの程度増加が見込まれる。

(注1) サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判が国内で高まったため、近年はグリーンハーベストが推進されている。

砂糖を含む飲料への増税が延期

タイ政府は2022年9月20日付けの閣議で、近時の物価高騰を受け、砂糖を含む飲料に対する物品税の引き上げを来年3月末までの6カ月間、延期することを決定した。

同国政府は、国民の健康確保の観点から食品における減糖を奨励しており、17年9月16日に含糖飲料に対する物品税を導入し、2年後の19年10月1日には第2段階として税率が引き上げられていた^(注2)。

(注2) 1リットル当たり含糖量6グラム以上の飲料に対する従量税であり、砂糖の含有量に応じて0.3～5タイバーツ（12～20円：1タイバーツ=3.89円）の5段階に分かれている。なお、単位の換算には、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年9月末TTS相場を使用した。

また、21年10月1日からは第3段階の追加引き上げが予定されていたものの、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を鑑み、適用時期が22年10月1日に延期されていた。しかし今回、同国政府はさらに6カ月間の猶予を発表し、これに対し財務相は、「物品税のさらなる引き上げは、現況においても食品価格に大きな影響を及ぼすものと懸念され、この度の延期は企業における適応時間を十分に確保するためのものである」との声明を出している。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

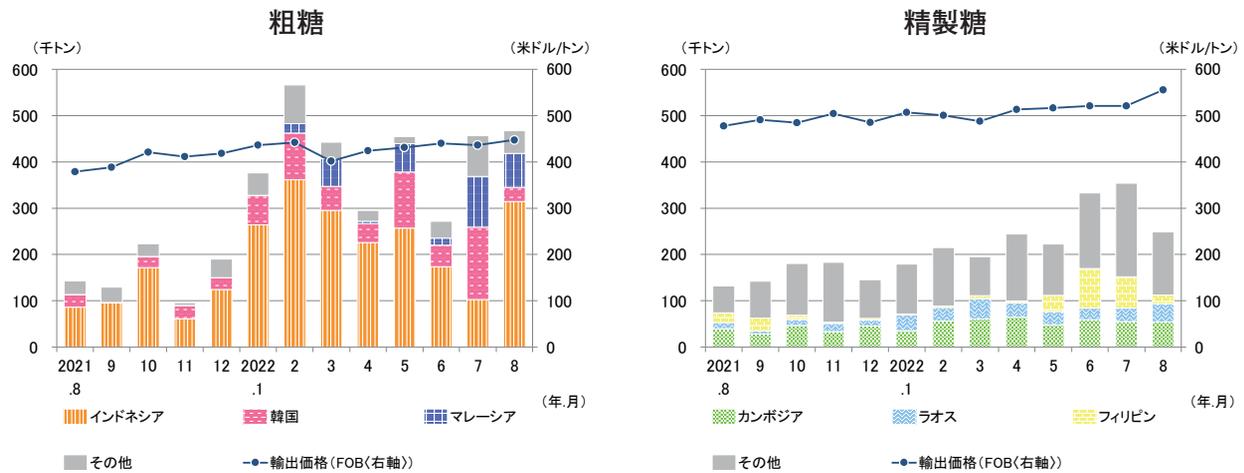
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	2022/23 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,489	1,679	1,679	12.8%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	92,071	110,000	110,000	19.5%	
砂糖	生産量	8,801	7,971	10,699	12,774	12,774	19.4%
	輸入量	66	113	160	10	10	▲93.8%
	消費量	3,773	3,592	3,644	3,644	3,724	2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,113	9,106	8,721	7.5%
	期末在庫量	4,532	5,043	4,145	4,730	4,484	8.2%
	期末在庫率	37.0	66.6	35.3	37.1	36.0	0.8ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。